Doctor's eye
ドクターズアイ

もり脳神経外科クリニック院長
（長崎市新大工町）
森（もり） 勝春（かつはる）

脳卒中に気を付けて

症状あれば迷わず119番

脳卒中は脳の血管によって起こる病気で、多くは突然発症します。脳の血管が詰まる脳梗塞、脳の血管が破れて脳内に出血する脳出血、脳動脈瘤（りゅう）という血管に生じた血管のコブが破裂するくも膜下出血があります。早期に治療すれば、脳へのダメージを最小限にでき回復する可能性が高まります。後遺症を残せば、その後の人生に大きく影響するため発症の予防がとても大切です。脳卒中を疑う症状の早期発見、救急要請の際の注意点、受診後の治療内容、予防について解説します。

■「FAST」～以下の症状が急に出現するときは病院へ

①顔のゆがみ（Face）＝片側の口角が下がる。口から水がこぼれる。顔のゆがみがあれば要注意②腕が下がる（Arm）＝片側の腕や足に力が入らない、物を落とす③言葉の障害（Speech）＝ろれつが回らない、会話が成り立たない④時間（Time）＝先の三つの症状のうち、どれか一つでも当てはまる場合は、一刻も早く救急要請を！

他にも突然の強い頭痛、激しいめまい、吐き気、けいれん、意識障害も脳卒中のサインです。

■救急車を呼ぶときのポイント

発症から治療までの時間が短いほど治療効果は高まります。迷わず119番し、いつから、どんな症状が出たかを伝えてください。救急での初期対応は呼吸循環、神経症状の評価、脳画像診断（CTやMRI）による出血／梗塞／血管閉塞の確認です。出血か梗塞かにより治療の方向性が大きく変わります。救急車を呼ぶか迷った場合は24時間365日相談ができる救急安心センター（#7119）へ相談を！

■治療法～初期診断により治療法が決まる（Time is BRAIN!）

脳梗塞＝発症からの時間や画像所見に応じて血栓溶解薬（静脈内t－PA）や血栓回収術（カテーテル治療）が行われます。発症後早いほど効果的かつ副作用が軽減できます。

脳出血＝出血量や出血部位、意識状態などにより血腫除去や外科的止血を検討します。

くも膜下出血＝脳動脈瘤の確認の後、開頭クリッピング術、コイル塞栓術などを行います。脳卒中共通の急性期管理として血圧や呼吸循環、血糖の管理、脳浮腫対策、合併症予防が行われます。

「Time is BRAIN!」とは診断治療を行う医療者への言葉であるとともに、「異変を感じたらすぐに病院へ」という患者さんへの言葉でもあります。重い後遺症を残さないためにできるだけ早い対応を！

■回復期リハビリ

急性期治療後は早期リハビリが機能回復に役立ちます。言語療法・作業療法・理学療法を開始し、合併症（誤嚥（ごえん）、褥瘡（じょくそう）、うつ）を防ぎ、社会復帰を見据えてチーム医療でサポートを行います。

■脳卒中の予防

動脈硬化のもととなる高血圧、糖尿病、脂質異常、心房細動の管理が大切です。特に血圧コントロールは脳卒中予防の基本中の基本です。禁煙、適度な運動、塩分制限やバランスの良い食事、節酒、体重管理も大切です。血縁者の中に脳動脈瘤やくも膜下出血既往の方がいる場合や生活習慣病の背景のある方には脳ドックによる評価も効果的です。

脳卒中は「早期治療」と「予防」が要です。異常があれば、すぐ受診を。そして、運動・食事、定期健診により予防に努めましょう。

「ドクターズアイ」は、長崎市医師会の協力で県内の医師による寄稿を掲載しています。